

『御礼と報告』

去る九月二十三日(火・祝)アビスタの小ホールに於いて「オーディオ・コンサート」を開催。会場は定員七十名のこじんまりとしたホールであり、又当日は秋の三連休の最後の日でも有り参加者がどれほど集まるか心配されたが、予想に反しほぼ満員の盛況で、アンケートの結果も好評であった。

今回は演奏者を招聘せずAAFCの活動を紹介すべく構成した。

全体を二部に分け、第一部は模擬例会の紹介として通常の例会を時間を縮小して、六名の会員が自分の得意な分野の就いてCDを聴きながら解説した。ジャンルもバイオリン、ピアノ、ジャズ、ホルン、フルクローラギター、シャンソンなど多岐に亘った。またAAFCに入会して現在の音楽生活を豊かになったなど感想を聴衆に語りかけ入会を勧めた。

休憩の後、第二部は初めに聴衆の持参したCDを大型のスピーカで音量を上げて聴いて貰う「リンクエスト・アワー」で始まった。

六人ほどの参加者から持参のCDの提供があり、司会者の軽妙なやり取りの中で和やかな時間が過ぎた。感想の中にも住宅事情の関係から自宅では大きな音で聴けないので楽しかったという声があった。

第二部の後半は会員の自作機材の説明と実演を行った。

初めは「同じ音源によるLPとCDの聴き比べ」で音源を瞬時に切り替え音質などの違いを聴き比べた。LPが柔らかな自然の音の感じがした。

会場の後方に自作真空管式アンプやSPレコードプレーヤーなどの展示を行い、休憩時間に来場者が興味を持って熱心に見学、質問を行っていた。



次は全段ルビジウムロックシステムによるACDプレーヤー、チャンネルバイダー、デジタルアンプなどによる機器で構成したシステムでジャズ、音楽などを鑑賞した。

通常の水晶によるものとは違い、透明性が優れ音質が向上したのが良く分かった。

会場には、例会で使用のスピーカー(大きすぎて搬入できないため)の写真、例会の風景、AAFCの歴史、活動などの資料を展示し会場の皆さんに見ていただいた。

予想を上回る聴衆が集まり、大盛況の内に無事コンサートが終了できた。

終了後、駅前のレストラン「こびあん」で終了式を行い、アルコールなどで喉を潤し無事コンサートが終了したのを祝した。

会長 佐藤 久男

『オーディオと私』

東北の福島県に疎開したのが、小学四年生、戦中、戦後の何もない時代に青春を過ごしたので音楽、オーディオなど無縁の生活だった。友人の家で大型のスピーカで聴いてシヨックを受けたのがオーディオとの出会いだった。

モーツァルトに初めて出会ったのが小学五年、バイオリン合奏の先生が発表会のアンコールでメヌエットを弾いてくれ、素晴らしいに虜になり以来六〇年、ひたすら彼の魅力に夢中になっている。

会社に入社してすぐ、念願のオーディオ装置を購入した。KSモータ、オイルダンブアーをプレーヤボックスに取り付け、GEのヴァリレラ型カートリッジ、松下の拳骨スピーカー8PW1を大型の箱に入れ、トリオのアンプで聴いた。

独身寮の部屋なので小音量でしか聴けないが、当時の自分としては素晴らしい音に聞こえた。

その後、名古屋に足かけ二〇年ほど住んでいたが、偉大なる田舎でN響すら来ない状態

乏しい音楽生活の中で、カラヤン・ウィーンフィル、ウィーン・コンツェルトハウスQ、ライブティッシュヒゲバントハウスのマタイ、ヨハネ受難曲、ブランドンブルク協奏曲などが記憶に残っている

三〇年ほど前に東京に転勤し、今までの遅れを取り戻そうとコンサート通いに精を出し、日本モーツァルト協会にも入会して音楽生活を楽しむことが出来た。

当時はLPの時代でFM放送も試験段階、オープンリールで放送をセッセと録音しては楽しんでた。

当時、LPは二千元を超え安月給では購入もままならない時代だった。

一五年前の春、家内から我孫子市の公報に「オーディオ好き集まれ」という記事が出ていたのを教えられ、発起人会に出席したのがAAFCとの出会いだった。山本さん、渡辺さんなどが出席されていた。以来一五年間、素晴らしい友人に恵まれ、ハード面の指導も受け以前とは随分違った装置で音楽を楽しむことが出来るようになった。

エレキには弱いので自作などは程遠いが、ラックスマンの真空管式アンプを指示書通り半田付けしたのが唯一の工作だった。小笠原さんにチェックしていただきサブ機として使っている。

現在の機器は会員から譲って頂いたものばかりで、総額五万円程度で済んだ。

専用のオーディオルームもなく、仏間に装置を置いていたので、音量も上げられず専ら小音量で密かに聴くのが精一杯の状態である。

会員のお宅に伺っては、我が家の装置と較べて雲泥の差に、ひたすら我慢と忍耐を強いられ精神修養に努めている。

二〇〇二、三年とAAFC会員とザルツブルク音楽祭などに出かけた。

姪がキャンセルした切符を手に入れ待望の音楽祭で、ゲルギエフ、アーノンクールなどの指揮者、ウィーンフィルのオペラ、コンサート、バレンボイムのリサイタルなど音楽三昧の毎日を通り、一生の思い出となっている。

翌年はミュンヘン・オペラ、ミカエル教会でのグノー、モーツァルトのミサを聴き敬虔な体験をした。ウィーン国立歌劇場ではセシ

リアの理髪師を鑑賞し、フォルクスオーバーでは毎晩オペレッタを楽しんだ。

最近ではTV、DVDなどの映像付きで音楽を鑑賞することが多くなった。オペラなどは当然として、オーケストラ、室内楽などでも映像がないともの足りなくなっている。実際の音楽会でわざわざ目を閉じて聴いている人は少ないので当然かも知れない。

数回で止める積もりで始めたオペラ鑑賞会もいよいよ二〇回目を迎える。熱心な会員に支えられここまで続いたのも有り難いことで感謝に堪えない。

趣味の友人が一番という事が言われるが、AAFCでは正に最良の友人に恵まれている。

年齢、社会人時代の地位など一切無関係に音楽・オーディオが好きと言っただけで、共通の趣味で繋がっている。コンサート、旅行、自宅訪問など幅広い関係で繋がりが出来、定年後の寂しい生活の張りとなっている。

AAFCは私にとって一番の宝で、唯一の支えとなっている貴重な存在であり、これからの残り少ない人生の拠り所となっている。

会の創始者、故井上さんもこんなに会が活発に発展しているのを、天国で満足されおられると思えば感謝に堪えない。

佐藤 久男

『写真は連日映像収集にご多忙な同氏と愛用の機器類』

